

社会貢献活動レポート 2006

Social contribution activities report 2006



明日のために、今日はじめよう。
 もっと暮らしやすい
 社会をつくるために、
 コスモ石油は行動しています。



コスモ石油の使命は、石油などのエネルギーを社会に安定供給することです。

しかし、ガソリンなどをつくるときに、またお客様が使用するとき、

環境に大きな負荷をかけていることも事実です。

企業が発展していくためには、地球環境が保全されていること、そして社会が平和で健全であることが、その前提条件になります。

コスモ石油は、地球と人間と社会との共生を基盤に、持続的な発展に向けて、

「未来の社会をつくる子どもたちの啓発」

「人間社会が存続するための基盤である地球環境の保全」

そして「平和で豊かな文化的社会の構築」をテーマに社会貢献活動に取り組んでいます。

活動の経緯

コスモ石油は、1992年に「社会貢献活動の基本方針」を定め、全社的に社会貢献活動への取り組みを開始しました。1993年に、初めての社会貢献プログラムとして、交通遺児の小学生を対象とした自然体験プログラム「コスモわくわく探検隊」を開催しました。社員ボランティアの参加を促すとともに、外部とのネットワークを広げることで、活動の質の向上やフィールドの拡大を図っています。

基本方針

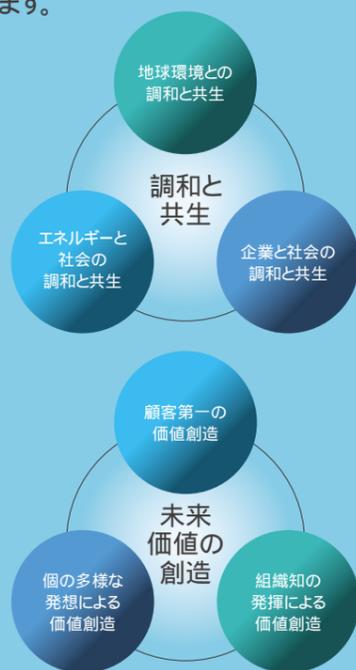
コスモ石油としてオリジナリティのある活動を行う社員が参加して活動する
 経営状況に左右されず長期継続する

社会貢献活動のコンセプト

未来の社会をつくる子どもたちの啓発
 人間社会が存続するための基盤である
 地球環境の保全
 平和で心豊かな文化的社会の構築

コスモ石油グループ経営理念

わたしたちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展を目指します。



2005年度の主な活動

2005年度(2005年4月～2006年3月)は、次のような活動を行いました。

2006年度も、よりよい社会づくりのために、継続的な活動を展開します。

P04-08 子ども・環境・社会をテーマにした活動

- コスモわくわく探検隊 P04
- コスモ子ども地球塾 P04
- 子どもための自然アートワークショップ P05
- クリスマスカード・プロジェクト P06
- 小学生向け「地球環境ブック」の配布 P06
- Webコスモ子ども地球塾「エコネッツ」 P06
- コスモ絵かきっず P07
- ユース・フィランソロビー P08

P09-10 コスモ石油エコカード基金による活動

- 熱帯雨林保全プロジェクト
- 南太平洋諸国支援プロジェクト
- シルクロード緑化プロジェクト
- 循環型農業支援プロジェクト
- 秦嶺山脈森林回復プロジェクト
- 学校の環境教育支援プロジェクト
- 環境学校支援プロジェクト
- 参加型 総合学習・環境教育支援サイト「EEkids」

P11 環境メッセージの発信

- コスモ アースコンシャス アクト
- コスモ石油 Voice of the earth
- インターネットムービー「地球のためにできること」
- 環境文化誌「TERRE」

P12 芸術・文化活動支援

その他の活動

P13-14 外部からの評価

子ども・環境・社会を
テーマにした活動



子どもの環境教育から、「社会貢献マインド」を持った子どもたちを育成するプログラムへと、活動が広がっています。

「主催」と「社員参加」がキーワード。

コスモ石油は1993年に、社員参加型の「コスモわくわく探検隊」を開始しました。コスモ石油が主体となってイベントを企画・運営することで、子ども向けプログラムづくりのノウハウが蓄積され、NPOとのネットワークも広がりました。「コスモわくわく探検隊」で、ボランティア活動のノウハウを学んだ社員は、現在200名以上。2002年に開始した「コスモ子ども地球塾」をはじめ、さまざまな活動に参加し、コスモ石油の社会貢献活動を支えています。

継続的な活動をベースに活動を拡充。

コスモ石油は、継続的な活動を通じて得たノウハウや人材、外部とのネットワークを活用して、新たなプログラムを拡充してきました。継続的に活動を行うことで理解や認知が高まり、社内外に「社会貢献マインド」が醸成されていきます。2004年には、社員ボランティアが中心になって活動するアート・コミュニケーション・プログラム「コスモ絵かきっず」を開始しました。

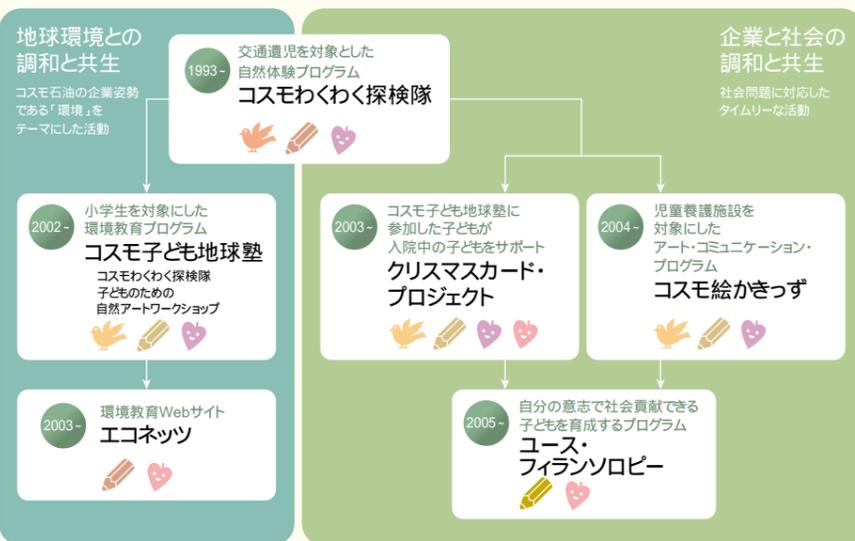
子どもたちの「社会貢献マインド」を醸成。

コスモ石油の活動は、環境問題から幅広い社会問題をテーマにした活動へと拡大しています。2003年に開始した「クリスマスカード・プロジェクト」は、「コスモ子ども地球塾」に参加した子どもたちの「社会貢献マインド」を醸成する活動としてスタートさせました。これがもとになり、2005年度は、自分の意志や発想で社会貢献できる子どもを育成するための「ユース・フィランソロピー（子どものための社会貢献教育プログラム）」を開始しました。

子ども・環境・社会を
テーマにした
活動の広がり

継続的に開催する「コスモわくわく探検隊」で社員ボランティアの育成とノウハウの蓄積を図っています。また、これにより活動のフィールドを拡大するとともに、社内外のボランティアマインドの醸成や新たなノウハウの蓄積を図っています。

- 社員ボランティアの育成
- 社員ボランティアの参加
- ノウハウの蓄積
- ノウハウの活用
- 社内の社会貢献マインドの醸成
- 子どもの社会貢献マインドの醸成



1993-

コスモ子ども地球塾
第13回
コスモわくわく探検隊

交通遺児を対象にした自然体験プログラムです。

コスモ石油は、クルマ社会と深いつながりを持っています。コスモ子ども地球塾の一環として、交通遺児の小学生を対象にした、2泊3日の自然体験プログラム「コスモわくわく探検隊」を継続的に実施しています。

実施までのプロセス 2005年2月、4月と現地下見を行い、開催地を決定。イントラネット掲示板で社員ボランティアを募集し、5月には19名のスタッフが決定しました。6月にはスタッフ全員が集まり、2泊3日の研修で本番と同じスケジュールをこなしながら、安全管理や子どもたちの心のケアについて学習しました。その後、本番までの間にスタッフはメールや電話で情報を共有し、プログラムの内容確認や事前準備を行いました。本番前夜に最後の事前確認ミーティングを実施しました。

実施概要

プロジェクトメンバー: コスモ石油、アースコンシャス
プロジェクト開始時期: 2005年1月
開催場所: 山梨県河口湖畔 野外活動施設
開催日: 2005年7月28日～30日(2泊3日)
参加者: 交通遺児の小学生46名、コスモ石油の社員ボランティア19名



3日間でヒミツ基地と自然の遊び道具をつくりました

社員スタッフの現地研修。夜のミーティングの様子



参加児童の保護者の声

- 一人だけで泊まることのできない子でしたが、スタッフの方やリーダーが優しくして下さい、今回で3回も一人で参加させてもらいました。子どももとても楽しみにしているイベントになっているようです。
- 本当に楽しかった。また、行ってみたいと言っていたので、それだけでスタッフの方々の子どもたちに対する愛情が見えてきた様で本当に嬉しく思えました。
- いつも盛り沢山のプログラム、行き届いた対応に心より感謝しております。
- 初めて体験することばかりで興奮して帰ってきました。イキイキと自慢している姿に本当に参加させて良かったと思いました。ありがとうございました。
- 毎年、1年生から6年生まで全て参加させて頂きました。ありがとうございます。おかげ様で男の子らしい自然が大好きな少年に成長しました。続けていって下さい。

Partner Interview

社員ボランティアをスタッフにする。手間も根気も必要ですが、企業にとってプラスだと思います。

「コスモわくわく探検隊」は、子どもの自然体験プログラムであると同時に、コスモ石油の社員ボランティアをスタッフとして育成する場でもあります。当日、いかにプログラムを上手く運営できるかがポイントになるため、プログラム内容をスタッフとともに検討したり、子どもたちが行うプログラムを実際に現場でやってみて危険がないかチェックしたり、万全の準備をしました。

当日は、安全管理をしっかり行う一方で、スタッフも子どもたちもなるべく自由にふるまえるように配慮しました。スタッフと子どもが別れ際に涙を流していたりするのを見ると、やっとなかたと感じます。自然に触れて、感動や発見、驚きを体験した子どもは、食べ物を残さなくなったり、友達がつくれるようになったり、行動が変化します。手作りの活動なので、手間も根気も必要ですが、子どもが感じたことを持ってくることもできるプログラムにしたいと考えています。今後は、活動でどのような成果を出すかなどについて、コスモ石油と私たちの価値観をシェアリングしていくことで、パートナーシップがより良いものになると思います。



アースコンシャス代表 加藤大吾 Kato Daigo
'04年度より「コスモわくわく探検隊」のパートナー



子どもたちの
発想の豊かさには、
いつも驚かされます。
コスモキッズのみんなは
キラキラと輝いていました。
(ヨゼフ・ウィルコン)



2002- コスモ子ども地球塾
「子どものための
自然アートワークショップ
～森の動物オーケストラ～」

絵本作家・彫刻家のヨゼフ・ウィルコンさんと
子どもたちが、森の中で
楽しい作品づくりと音楽を楽しみました

四季の自然の中で、「見る・感じる・作る・学習する」体験を通じて、子どもたちに自然への「気づき」をつながし、自ら行動する機会を提供することを目的としたプログラムです。2005年度は、ヨーロッパを代表する絵本作家・彫刻家のヨゼフ・ウィルコンさんと一緒に、子どもたちが森を散策し、廃材や流木を材料に、「森の動物オーケストラ」をつくりました。制作終了後に「森の動物オーケストラ」を囲んで、ヴァイオリンとアコーディオンによるミニコンサートを開きました。



社員ボランティア
スタッフも大活躍でした

実施までのプロセス

今年、4回目を迎えたアートワークショップは初めて海外からのアーティストを招聘し、2005年5月にヨゼフ・ウィルコンさんの来日が決定しました。参加者は新聞や美術館等で公募しましたが、予想以上に反響が大きく、当初予定した約2倍の55名の児童を対象に実施することになりました。開催にあたっては世田谷美術館の全面的なパートナーシップにより、会場や設備をお借りすると共に、学芸員の方々にもワークショップをサポートいただきました。社員スタッフは社内イントラネット掲示板と社内報でボランティアを募集し、土・日曜あわせて参加を希望する社員も集まりました。

実施概要

プロジェクトメンバー: コスモ石油、ワンダーアートプロダクション、
世田谷美術館
プロジェクト開始時期: 2005年5月
開催場所: 東京都立砧公園、世田谷美術館
開催日: 2005年8月13日、14日
参加者: 東京近郊の小学生55名、
コスモ石油の社員ボランティア延べ16名(2日間)

参加した子どもたちの感想

- 🐼 くぎを打ったり、絵の具でぬったりしたことが楽しくて、できた時、おもいどおりにできたことが楽しかったです。(小学6年・男子)
- 🎵 アコーディオンとバイオリンの演奏をきいているとき、みんなの作品が弾いているみたいだった。(小学5年・女子)
- 🌳 最初はそこらへんにちらばっていた木がうまく動物になるか不安だったけれど作った時うまくできてよかったです。(小学5年・女子)

2003- クリスマスカード・プロジェクト

子どもたちと社員が、入院中の子どもたちに
メッセージカードを送って励ましました。

「子どものための自然アートワークショップ」で制作したグリーティングカードを、入院中の子どもたちにプレゼントするプロジェクトです。2005年度は、5つの病院に600枚のカードをお送りしました。グリーティングカードには、「子どものための自然アートワークショップ」に参加した子どもたちと社員のメッセージや楽しい絵が添えられています。



各病院へ直接、
お届けしました



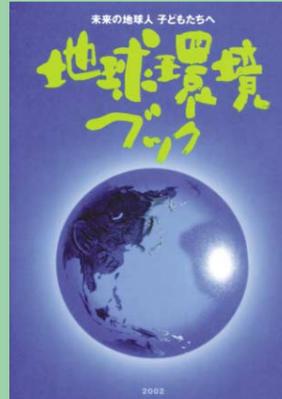
参加児童の保護者の声

- 🐼 病院でクリスマスを迎える子どもたちに小さな喜びとなれば嬉しく思います。
- 🐼 クリスマスカードを書く事によりやさしく人を思いやる気持ちを持つことができればとてもうれしく思います。心をこめて多くのお友だちに書ければ良いと思います。

2002- 小学生向け環境副読本
「地球環境ブック」

地球環境を守るために活動している
人々のメッセージを伝える本です。

小学生を対象に制作した「地球環境ブック」を2002年に発行し、ご希望の方に無料で配布して、また教育関係者に限定、送料はご負担いただいています。



お申し込みアドレス
www.cosmo-oil.co.jp/phil/earthbook/index.html

2003- 環境教育Webサイト
Webコスモ子ども地球塾
「エコネッツ」

地球を守るために
どうすれば良いかを、
一緒に考える
Webサイトです。

小学校の総合的な学習の時間に役立ててもらうことを目的に、2003年に立ち上げたWebサイトです。環境保全に取り組む人の活動とメッセージを中心に、環境教育に役立つ情報や、実際に参加できる活動の紹介などを行っています。2005年度は、インタープリター加藤大吾さんのコラム「森で暮らすということ」のページを新たに設けました。



www2.cosmo-oil.co.jp/econets/

2004- 児童養護施設を対象とした アート・コミュニケーション・プログラム コスモ絵かきっず

楽しく遊びながら、子どもたちに
元気になってもらうプログラムです。

家庭内暴力などにより、保護者がいながら児童養護施設で暮らす子どもたちが急増しており、東京都だけで3,000名に上っています。コスモ石油は、こうした子どもたちを元気づけるため、アートセラピーを導入したオリジナルのプログラム「コスモ絵かきっず」を実施しています。2005年度は、東京都内の児童養護施設を対象に、年間5回のプログラムを実施。アーティストの南村控 みなみ くろうさんと社員ボランティアが週末に養護施設を訪問し、子どもたちと一緒に絵を描いたり、焼き物を焼いたり、さまざまなプログラムを楽しみました。これは、子ども向けプログラムの主催を継続して行ってきたノウハウと、社員ボランティアの能力を活かして開始したプログラムです。



中庭リノベーション



実施までのプロセス 今年度は、今まで興味深くクリエイティブなアートプログラムに取り組んできた子どもたちに、もっとアートに触れて新しい自分を発見してもらいたいという思いから、「絵かきっず アフタープログラム」として昨年と同じ児童養護施設で継続することとなりました。また、子どもたちがコミュニケーションに慣れ、信頼関係が生まれてきたことから同じアーティストにお願いするとともに、社員の得意な分野を生かし社員講師のワークショップも実施しました。スタッフは社内イントラネット掲示板、社内報を通じ、その都度、社員ボランティアを募集し、実施しました。

実施概要

プロジェクトメンバー: コスモ石油、ワンダーアートプロダクション
プロジェクト開始時期: 随時
開催場所: 東京都内の児童養護施設
開催日: 2005年5月21日「テラコッタ花器づくり&中庭コンサート」
7月2日「フラワーアレンジメント&ヴァイオリンコンサート」
11月12日「中庭リノベーション」
12月10日「クリスマスリースづくり」
2006年1月24日「墨絵にチャレンジ」
参加者: コスモ石油のボランティア延べ35名

テラコッタ花器づくり

児童養護施設の先生方の声

私には思いつかないような子どもの発想の豊かさに毎回驚かされました。いつも素敵な企画を用意していただき、ありがとうございます。

普段、花のような純粋に美しいものに触れたり、自分で創りあげたりする機会が少ない子どもたちにとって新鮮な経験になったと思います。どの子も残らずいい顔をしていたし、出来上がったものが、どれもステキで驚きました。



ワンダーアートプロダクション
代表/アートプロデューサー
高橋 雅子
Takahashi Masako

Partner Interview

今年撒いた種を、来年咲かせよう！
一緒に活動していて楽しみな会社です。

「コスモ石油の姿勢は、この活動をする、子どもたちがどう感じて、どう行動が変わっていくか、ということを大切にしている点、それが特徴だと思います。子どもたちや私たちパートナーに対して、社会貢献の意識を伝えていくことにも注力されています。社員の意識も高いと思います。自然アートワークショップに参加される社員ボランティアは、いつも子どもたちが良い思い出を持って帰れるように気を配ってくれ、非常に頼もしく感じています。今後、コスモ石油らしいスタンスで、社会のニーズをすくいあげていく、という思いがあります。」

「コスモ石油の社会貢献活動は、いつも前進、成熟しています。たとえば、2003年度は「自然アートワークショップでつくったグリーティングカードを何かに役立てられないだろうか」という発想がもとになって、入院中の子どもたちにプレゼントする、クリスマスカードプロジェクトへと発展しました。カードにメッセージを書いた子どもたちは、自分も社会に役立てることへの気づきがあったと思います。」

2005- ユース・フィランソロピー

小学生がNPOの活動を体験・取材・発表し、
社会貢献マインドを育成するプログラムです。

健全な社会づくりに向けて、自分の意志や発想で社会貢献活動が行える子どもを育成するプログラムです。2005年度は、小学校4年生の児童が、授業の一環として、グループに分かれて、福祉や環境をテーマにした5つのNPOの活動を体験・取材を行いました。子どもたちは、活動の現場を見ることで、助け合い活動の必要性や、身近な地域から外国まで様々な人 助ける側も助けられる側も含め がいいることを知りました。また、グループごとに、良いと思う点や、こんなことがあればもっと良いと思う点について考え、発表することで、判断力と創造性を高めました。発表を聞いた子どもたちは支援したいと思うNPOの活動に順位を付け、それに準じてコスモ石油からマッチングギフト形式でNPOに助成しました。

実施までのプロセス これまでの次世代育成プログラムを経て、子どもたちの「社会への興味を拡大し自信につながる」プログラムを模索していたところ、2005年5月にNPO事業サポートセンターから当社のスタンスと同じ方向性のプログラム「ユース・フィランソロピー」のご提案があり、協働することになりました。「ユース・フィランソロピー」は米国では90年代から学校教育に取り入れられていますが、日本の小学校教育では初の試みでもあり、導入は難しいと思われました。そんな状況の中、横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校の前校長であられる同大学の高橋勝教授のご理解とご協力により、同小学校4年生の授業内で実施したいとのお返事を2006年1月上旬にいただくことができ、担任の先生と共に準備を進めました。さらに、子どもたちの体験・取材を受け入れていただいたNPO5団体の協力によって2~3月に「ユース・フィランソロピー」第1回が実現しました。

実施概要

プロジェクトメンバー: コスモ石油、NPO事業サポートセンター、横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校、NPCC 21世紀教育研究所、APSD、びーのびーの、ふれあいドリーム、ハンガー・フリー・ワールド、ワンダーアートプロダクション)
プロジェクト開始時期: 2005年5月
開催場所: 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校
開催日: 2006年2月9日、23日、3月15日
対象者: 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校4年生の児童43名



各NPOの方に活動内容をビデオやスライドを使って説明していただきました

各NPOを取材し、
実際の活動を体験しました



NPO法人
びーのびーの



ワンダーアート
プロダクション



2001- 熱帯雨林保全プロジェクト

[活動地域/プロジェクトパートナー]
バブアニューギニア / OISCA
ソロモン諸島 / APSD

CO₂の吸収源である熱帯雨林を保全するため、その第一歩として、森林への負担をかけない定地での循環型農業の普及を支援しています。



2002- シルクロード緑化プロジェクト

[活動地域/プロジェクトパートナー]
中国 / NPO2050

砂漠化の進行防止を目指して、地域住民や地元政府とともに、シルクロード黄土(オウド)高原の植林を推進しています。



2002- 循環型農業支援プロジェクト

[活動地域/プロジェクトパートナー]
フィリピン / NPO2050

キャッサバの葉を再利用する循環型農業を軸に、地域の持続的な発展を支援しています。



子どもたちの環境教育支援と環境情報発信

2002- 学校の環境教育支援プロジェクト

[支援校/プロジェクトパートナー]
北海道、千葉、神奈川、三重、沖縄 / 社団法人 日本環境教育フォーラム

総合的な学習の時間に環境教育プログラムを提供するなど、学校での環境教育を支援しています。



2005- 参加型 総合学習・環境教育支援サイト「EEkids」

[プロジェクトパートナー]
社団法人 日本環境フォーラム

環境gooの中に、参加型の総合学習・環境教育支援サイト「EEkids」を立ち上げました。ブログを使って学校やグループの活動の発表が行えます。

www.eco.goo.ne.jp/education/eekids/



2003- 環境学校支援プロジェクト

[活動地域/プロジェクトパートナー]
白神、富士山、佐渡、西表、屋久島、志賀高原、東京 / NPO法人セブンサミツ持続社会機構

環境問題と社会問題を、同時に体験・勉強することで、環境保全に向けて自ら行動できる子どもたちの育成を目指しています。



2002- 南太平洋諸国支援プロジェクト

[活動地域/プロジェクトパートナー]
キリバス共和国 / APSD, ISME
ツバル国 / ツバル政府

温暖化が原因といわれる海面上昇で、井戸水の海水化や海岸線の浸食などの被害に直面する島嶼(とうしょ)国を支援しています。



2005- 秦嶺山脈森林生態系回復プロジェクト

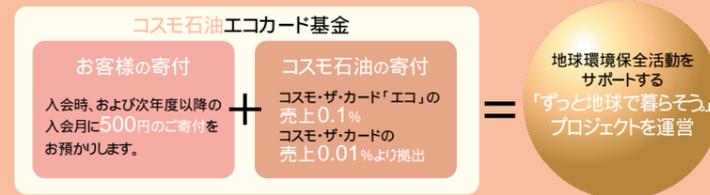
[活動地域/プロジェクトパートナー]
中国 / 西北大学

2005年～2008年までの4年間に、森林生態系がもっとも破壊されている森林分断道路への植林を行います。



コスモ・ザ・カード「エコ」って何?

コスモ石油は、2002年4月に、コスモ・ザ・カード「エコ」(クレジットカード)を発行しました。これは、私たちとお客様が一緒になって環境問題に取り組んでいこうという試みです。会員の皆さんから年間500円をお預かりし、コスモ石油からの寄付金などを合わせた基金を通じて、さまざまな環境保全活動を支援しています。2006年1月、会員数は80,000名に到達しました。

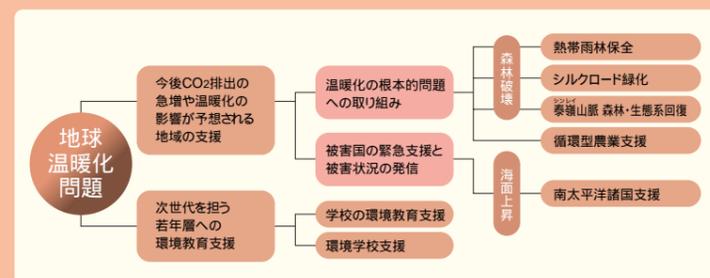


活動テーマ 1 地球温暖化防止に向けた途上国支援

石油と関わりの深い「地球温暖化問題」をテーマに、今後CO₂排出の急増や温暖化の影響が予想される途上国を支援するプロジェクトを展開しています。途上国の環境問題は、食料不足が引き起こす貧困問題や、人口増加などと密接な関係があります。私たちは、現地の状況を良く知っているプロジェクトパートナーと活動内容を考え、現地の人たちと何度も話し合い、プロジェクトをつくりあげています。

活動テーマ 2 子どもたちの環境教育支援と環境情報発信

途上国支援とともに、コスモ石油が力を入れているのが、次世代を担う子どもたちへの環境教育支援です。環境教育プログラムの提供などによって、環境教育に積極的な学校などを支援しています。また、環境について多くの方々が考えるきっかけとなるよう、プロジェクトの活動内容をWebなどでお伝えするなど、情報発信も積極的に行っています。



活動の詳細は
www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/eco/index.html

コスモ石油
エコカード基金による活動



「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトで、お客様と一緒に環境保全に貢献しています。

多くの人が環境について考え、行動していただけるよう呼びかけています。

環境メッセージの発信



環境保全に取り組む仲間を増やすためには、積極的に情報を発信していくことが重要です。コスモ石油は、環境をテーマにしたイベントや出版物を通じて、多くの人が環境について考える機会を提供しています。

2003- コスモ石油 Voice of the earth

「人」と「自然」の内なる声に耳を傾けることをテーマにしたコンサートです。

多くの人に良質な文化芸術に触れる機会を提供すると同時に、コンサートに参加されるアーティストや来場者の方々に、コスモ石油の環境への取り組み姿勢を認知・理解していただくための活動です。2006年3月の「Voice of the earth 2006」では「すべてが廻りあう瞬間」をテーマにピアノとヴァイオリンを中心としたストリングスの構成で展開しました。



1995- コスモ アースコンシャス アクト

全国FMラジオ局とのパートナーシップで、全世界の人々に環境保全を呼びかけています。

コスモ石油とTOKYO FMをはじめとするJFN(全国FM放送協議会)加盟38局がパートナーシップを組んで、「アースコンシャス-地球を愛し、感じるこころ-」をテーマに、地球環境の保護と保全を全世界に呼びかけていく活動です。「私たちひとりひとりが、地球のためにできることから行動を起こそう」という気持ちを形にする事を目的に、以下のような活動を行っています。詳しい情報は<http://www.tfm.co.jp/earth/>

ラジオ番組
「ずっと地球で暮らそう。」

パーソナリティに七尾藍佳さんを起用。毎朝日本各地から、その地域で最も旬で、話題でもある「自然環境保護をしていきたい場所」「その地域の身近な環境活動」などのトピックをJFN各局のレポーターが生中継しています。

TOKYO FMをはじめ、JFN38局ネットでオンエアしています。
(毎週月曜～金曜 6:40～6:45)

クリーン・キャンペーン

2001年4月より、全国の山、川、海、湖、公園を舞台に、自然と楽しみながら清掃活動を行う「クリーン・キャンペーン」を展開しています。2005年11月30日までに203ヶ所で清掃活動を行い、延べ79,239人の方々にご参加いただき、1,452,657リットルを超えるゴミを回収しました。より多くの方々にご参加いただき、楽しみながら環境活動を行っていただけるよう、ライブやビーチサッカーなどと組み合わせた企画を行っています。



アースデー・コンサート

音楽を通じて、地球環境への熱いメッセージを伝えるコンサートです。毎年4月22日の「世界アースデー」に開催しています。2005年は、東京スカパラダイスオーケストラ、一青窈に加え、海外のゲストアーティストも集い、日本武道館から環境に対する思いを世界に向けて発信しました。



野口 健 講演会&展示会

エベレスト清掃登山から活動の拠点を国内に移し、稀少自然保全や環境教育を中心に活動されている野口健さんの講演を全国各地で開催しています。野口さんの活動を振り返りながら環境・自然保全の重要性について語っていただくとともに、エベレストから持ち帰ったゴミや、活動パネル、映像を放映する展示会をあわせて開催しています。

2004- インターネットムービー & DVD 「地球のためにできること」

子どもとの対話形式で、コスモ石油の環境保全活動を紹介しています。

日常生活の中では、環境問題に対する意識も希薄となってしまいがちです。より多くの方々に地球環境の大切さを改めて意識していただけるよう、子どもとの対話形式で、コスモ石油の環境保全活動の内容や背景を紹介するインターネットムービーを制作、配信。さらにホームページ上で、この作品が収録されたDVDを無料で配布しています。
<http://cosmo-oil.netcinema.tv/>



2004- 環境文化誌 「TERRE」

身近な環境問題をテーマに、環境について考える本です。

「TERRE(テール)」とは、フランス語で「大地」「地球」の意味。「人を通して環境を考え、環境を通して人を見つめる」というコンセプトのもと、過去や現代の人の偉大な生き方や考え方を「環境」という切り口で解きほぐし、多角的に深く掘り下げていく環境文化誌です。



1997- 「子どものためのミュージカル」協賛

地域貢献として、コスモ石油本社のある東京都港区とその周辺の公立小学校、養護学校の児童・生徒を、ご招待しています。2005年は8月に開催しました。

2003- NPOグローヴィル 音楽活動支援

先駆的音楽の普及と人材育成を目的としたNPOグローヴィルが主催するコンサートに協賛しています。2005年は11月に開催しました。

2005

大阪ヨーロッパ映画祭
「キダーフィルム特集」協賛

東京国立近代美術館、
京都国立近代美術館
「小林古径展」協賛

ベートーベンが凄いいい!!
「全交響曲連続演奏会2005」協賛

NPO法人美術ファンクラブ
「～美術館・博物館へ行こう～
A Day in the Museum」協賛

牧阿佐美バレエ団創立50周年事業
新作バレエ「A bientot ～アピアントだから、さよならはいわないよ」協賛

港区コミュニティ・アート・プロジェクト 第4回「私と町の物語」
展示会協賛

心豊かな文化的社会づくりに向けて、芸術・文化活動を支援しています。



その他の活動

愛・地球博「地球市民村」への出展
CO₂の吸収実験装置(「愛・地球博」に出展)の日本未来科学館への出展
NPO法人農地トラスト「ダム堆砂モニター事業」支援
各製油所による、近隣の清掃やスポーツ教室開催などの地域貢献
みなとネット、CCネットなど他社との合同イベントの実施、協力
あしながPウォークへの協賛
KIDSディズニールランドプロジェクトへの協賛
献血活動
使用済み切手、プリペイドカードの回収とNPOへの寄付
中古CD、ゲームソフトの回収とNPOへの寄付
外国コイン、紙幣の回収とNPOへの寄付
書き損じハガキの回収とNPOへの寄付
各種バザーへの献品協力

コスモ石油の社会貢献活動について、識者の方々から意見をいただきました。

社会的課題を解決することが、
企業の競争力になる。

いちばんに始める、長く続ける、それが大切。

1999年、日本初のEコファンドづくりに向けて、私が最初に調査訪問したのがコスモ石油でした。すでに、コスモ石油では「コスモわくわく探検隊」を開催されていました。そこにサステナビリティの要件、つまり子ども・未来」という視点が入っていることから、活動の方向性の正しさを認識しました。

「コスモ石油は、早い時期から環境に取り組みていますが、誰が何といおうと環境」と意識したところが強い。人は、意識で動きます。意識が変われば、行動が変わる。私たちは、誰よりも先に行動を起こした「長く取り組んでいる」という視点で企業を評価します。環境に関しては後発を気にすることなく、「コスモ石油らしい活動をスタンアップしていくのが良い」と思います。

美しいもの、それがエネルギー。

文化やアートという視点で、社会貢献活

動をされていることも、評価できる点です。近年、芸術の力が社会を変えていくことが注目されています。美しいものが、人の意識を変え、その意識が人を美しくする。美しいものが、エネルギーになるのです。今日のように病んでいる社会こそ、美しいものを必要としていると考えます。

より社会性の高い活動へ。

「コスモ石油の活動を評価できる点として、年々新しい視点を取り入れていることがあげられます。たとえば、Eコカードの活動では、「農業」や「雇用」という視点を持って、環太平洋地域の森林保全に取り組んでいます。環境という視点で始めた活動が、社会という視点を持った活動に広がっています。そして、ぜひ「ここまで来たのですから、戦争と平和」を視点に入れることを提案したいと思います。戦争は、最大の環境破壊であり、最大の社会問題です。これからの企業に求められるのは、社会的課題を解決する力です。社会が求める行動をとることが、企業の競争力になるのです。



筑紫みずえ
Tsukushi Mizue

株式会社グッドバンカー代表取締役社長。
パリ大学文明講座修了。80年、フランス系の石油化学エンジニアリング会社やフランス系石油メジャー日本連結事務所にて勤務後、88年に金融業界に転身。ベルギー「クレディットバンク」を経て、96年スイス・ユニオン信託銀行で営業部次長を務める。98年に株式会社グッドバンカーを設立し、翌年社長に就任。日本初のSRI型投資信託「エコファンド」を企画開発して一躍話題に。01年同商品は、金融商品初のグッドデザイン賞を受賞。2004年開発の「ファミリー・フレンドリーファンド」もグッドデザイン賞受賞。現在、SRI型金融商品の企画や投資アドバイス、調査等を行うかわら、講演や執筆でも幅広く活躍中。



活動にパートナーシップが
実に生かされている。

パートナーシップによる新たな価値創造の可能性。

「コスモ石油の社会貢献活動を拝見してきて、いつも思うのは、パートナーシップが実に生かされている」という事です。パートナーシップが真に生かされるためには単に一緒に活動する事だけではなく、関わる者同士、深い相互理解が求められます。そのためには相手と同じ目線に立てる」という事が何よりも大切です。社員を動員し、企画・立案から実行までの過程を外部団体と歩み、社会に本当に必要なものは何かを一緒に考えようとする「コスモ石油の姿勢」には、パートナーシップによる新たな価値創造の大きな可能性を感じています。

パートナーシップで社会問題や環境問題の解決へ。

パートナーシップでも一つ肝心なのは、その波及性。企業と団体による活動を通して、さらにそれに参加する社会や人々同士のパートナーシップを築く、「コスモ石油の活動にはぞつた部分が見られます。例えば子どもたちのクリスマスカードプロジェクト。病院の中にいる子どもと、そつでない子どもとの心の繋がりを促進する素晴らしいパートナーシップ構築の企画だと見えています。

今後は、例えば「Eコネット」の豊かな資源を元に、子どもたちが環境保全を担うプ

ロジェクトを考え、異なる世代である大人とのパートナーシップで実現する企画。さらに、健全な社会作りに必要な支援や仕組みを子どもたちに理解してもらい、責任ある市民として育ってもらえる企画へと発展させていくことも可能だと思います。パートナーシップの追求は、「コスモ石油が積極的に取り組んできた環境問題の解決にも繋がります。大気一つとっても環境で境目を付けることが出来ない。だから環境問題解決には、地球上の様々な国や人々のパートナーシップが不可欠です。

多様な人々が相手を理解できる機会を。

今後は、企画をさらに拡大させ、多様な人々を繋げるパートナーシップの構築を一層追求して頂きたいと思えます。以前にある方が、一番辛いのは自分が目が見えない」という事実ではなく人が「可愛そうね」と言う言葉だ」と言われていました。人の可能性は身体的特徴や国籍、年齢等の個人的背景で限定されるべきではありません。違いを弱さとするのではなく単なる違いとして認め、多様な人々が相手を理解できる機会がもつと欲しい。心身の不自由な方や子どもなど、これまでとかく弱者、受益者として捉えられがちな人達の新鮮な視点や力を引き出し反映させる事で、みんなの「Eコネット」になる社会が達成されるのです。



大西たまき
Onishi Tamaki

インディアナ大学フィランソロピー・センター研究員・日米事業プロジェクト・ディレクター
コロンビア大学院芸術経営学科修了。自動車会社勤務後渡米。オルフェウス室内管弦楽団財務部、カーネギーホール企業スポンサーシップ部を経て、1999年から2004年、全米公共テレビ放送PBSニューヨーク局資金調達部に勤務し大口寄付者を担当する。現在、ファンドレイザー協会より日系ファンドレイザー調査を実施。ブランド・ギビングや地域開発の社会支援・投資手法調査、フィランソロピー教育等、新たなフィランソロピック・マーケットの拡大に力を注ぐ。読書新聞「海外の文化」他で米国の芸術界やNPO、社会起業に関し定期執筆。





 **コスモ石油株式会社**

〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号 東芝ビル
TEL.03-3798-3211(代表) <http://www.cosmo-oil.co.jp/>



この社会貢献活動レポートの用紙は、古紙パルプ配合率100%の再生紙を使用しています。印刷インクには大豆油インクを使用することで環境負荷の低減を図っています。